

ある遺品整理の顛末

ウガンダ東部トロロ県 A・C・K・オボス=オファンビの場合

Preservation of Relics :
The Case of the late A. C. K. Oboth-Ofumbi in Tororo, Eastern Uganda

梅屋 潔

UMEYA Kiyoshi

はじめに

① 国務大臣と死霊, そして予言者

② 再訪

③ ゼファニア・オチェンの墓

④ ゴドフリー・オボス=オファンビとふたりのムゼー *Mzee* (長老)

⑤ レヴランド・キャノン・ミカ・オマラ

⑥ オファンビ邸と遺品

⑦ オボス=オファンビの墓

おわりに

【論文要旨】

私はここ10年ほど、ウガンダ東部にすむアドラ民族出身でアミン政権(1971-1979)関係だった故オボス=オファンビ⁽¹⁾の「遺品整理」とでもいえるような作業を行っている。彼はアミンの側近でありながら、ついにはその命令で殺害された人物である。出身地域で随一のエリートとして評価される一方、その生涯はティボ *tipo* (殺害された者の死霊) やラム *lam* (呪詛) そして予言者などの観念で彩られ、両義的な評価を付与されてきた。彼は当該民族最初の民族誌の著者であり、国防大臣として軍の兵舎を誘致し、父の墓を二度建てかえ、その名を冠したチャペルを建造した。邸宅には当時を知る手がかりとなる数多くの遺品が残っている。偶然から始まったこの人物への関心がアドラ民族の世界観への理解を深めることはもちろん、地域から見た世界史、そしてその手がかりとなるモノへの関心に繋がるようになった軌跡を辿る。

【キーワード】 ウガンダ・アミン政権、オボス=オファンビ、遺品整理、地域から見た世界史